



やまおか在宅クリニックのスタッフ からのメッセージ ～リレーフォーライフ in 大分～



安 土 美 保 (看護師長)
木野村 悦 子 (看護師)
高 山 朋 子 (看護師)
金 山 小百合 (看護師)
磯 崎 匡 子 (事務主任)
産 谷 康 子 (事務)
井 上 寧 子 (事務)
染 矢 恵理子 (専属ドライバー)
山 岡 祐 子 (事務)

「リレーフォーライフ in 大分」へ参加して！
安土 美保



看護師長 安土 美保

平成21年7月2日の開院から、お陰様で3年が経ちました。院長と山岡さん、事務1人、看護師1人の4人でのスタートでした。私自身、在宅の知識も経験もほとんどない中でのスタートでしたので、この3年の歩みを振り返った時に、周囲の方の協力と支援の大きさに深い感謝で一杯になります。

開院間もない最初の夏は、暑い夏だったのか思い出せない程、遠くに感じます。開院当時は連日、クリニックのできたばかりのパンフレットを持って、他事業所へ挨拶に回りました。その時の自宅での生活を支える他職種の方との出会いは新鮮なものがありました。ある事業所の責任者の方と初めてお会いした時、その方は、「お話を聴きましょう」と椅子をすすめ、熱心に話を聴いてくださいました。又、その方が何故介護の仕事をはじめたのかという話を聴きながら、その方の静かな熱意が伝わってきたことを今でもはっきりと覚えています。その方が言った「頑張ってください」という一言が、私の背中をポンと押してくれた様な気がしました。

あの日から3年が経過し、「大分市全体をホスピスに」を合言葉に、「住み慣れた家で、その人らしく、今を生きる」患者と家族を支えることを理念とし、「安心と安らぎを与える在宅医療」を目指して、がむしゃらに頑張った3年だったと思えます。頑張りすぎて、迷惑をかけたことも数多くあったと、反省もあり、後悔もあります。しかし、それ以上に一人一人の方の人生の深さ、豊かさに出会えたことに感謝しています。多くの反省を、今後の在宅支援の充実、一人でも多くの方の笑顔に繋げて行ければと思っています。

クリニックのスタッフも開院当時の4人から、現在は10人へと増えました。一つの目的に向かって行く仲間が年毎に増えてきた事は、クリニックにとっては大きな力です。そして今後も、地域の中で期待されるクリニックの役割は更に大きくなっていくでしょう。その責任を果たしていくためには、私たちがより謙虚な姿勢で、誠実な対応を日々重ねて行くことだと考えます。その為にも、めまぐるしく動く社会の中での、やまおかクリニックの立ち位置をしっかりと見つめ、専門職としての知識を深めていくことの重要性を更に感じています。

この3年間で出会った患者さん、ご家族、他職種の方、ご指導くださった皆様、地域の皆様に心から感謝しています。この3周年記念誌の中で、皆様にお礼の言葉をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。そして、今後も今まで同様の暖かいまなざしで、これからのやまおかクリニックをよろしくお願い致します。





看護師 木野村 悦子



山岡院長と安土師長の使命感と情熱に心を動かされ、ただただ、何かお役に立ちたいと願い仲間に加えていただいたあの日から、丸2年が経ちました。

それまでは病院の中で、看護師として、目の前にいる患者と家族に対して、どうすることが今、その方たちにとって一番いいのかだけを真剣に考えて、スタッフ一丸となって支援してきました。その結果、うまくいかないことも多くありましたが、一緒に乗り越えさせていただいたという、一体感と充実感をいただきました。でも疲れていました。

在宅では、院長と訪問看護師が中心に患者と家族に対して支援を行うため、私自身、今までとは全く異なった間接的なかわりとなり、一步引いたところから在宅医療に携わってきました。そのため、病院で勤務していた時のような一体感や充実感はありませんが、核家族や高齢化に伴う介護の問題や、地域で暮らす患者と家族を長期に渡って支援している人達の一途な姿、疾患や機能障害を持ちながらも明るく楽しく元気に過ごされる患者や家族の姿、医療費の問題など、病院の中では知る由もなかった大切なことがクリニックに携われたおかげで見えてきました。未だ毎日が驚きと発見の連続です。

そして、クリニックは、3周年を迎え、4年目に突入しました。

走り続ける山岡院長と、常に慎重姿勢の安土師長という、バランスのとれた環境の下、とにかく自由に明るく働かせていただいています。今まで甘えすぎだったので、今後は、看護師として、もう一步踏み込んで在宅医療に携わらせていただきたいと思います。

さらに、やまおか在宅クリニックが大分市の安全・安心の源であり続けられるよう、スタッフの一員として精進していきたいと思っています。



看護師 高山 朋子



クリニックに勤務して2年が過ぎました。この2年間は、とても濃密な時間でした。病院という施設の中の事しか知らなかった私には在宅という現場は色々な意味でカルチャーショックの連続でもありました。ただこの2年間で分かったことは「これでもいいんだ」ということでした。

医療機関でもなく、施設でもない、我が家という生活の場。例えベッド上で他者に生活を委ねながらであっても我が家と言う生活の音、空気を感じながら過ごすことは療養者ご本人、ご家族両者にとってかけがえのない場であると思います。しかし、その在宅療養を継続することは平坦な道でもありません。介護者は根底には深い愛情がありながらも不安を感じ、戸惑うこともあるでしょう、先の見えない介護から逃げ出したいくなる日もあることと思います。療養者は負担をかけたくないと、そこにいるだけの自分を責め苦しむ時もあると思います。しかし互いに揺れ動く気持ちを繰返しながら1つ屋根の下で生活する全員で成長し今を受け入れる力を得ることができます。この場面は在宅のパワーを強く感じる時でもあります。

今後も他職種、各部門担当者と連携し在宅療養を支える一機関として地道に取り組んで行けたらと思います。

社会の流れにより療養や看取りの場が病院から在宅へ変化する中、当院の様な24時間在宅支援診療所の役割も増してきます。これから先、クリニックのそして山岡院長の掲げる「大分県全体をホスピスに！」のビジョンに、どれだけ近づけ根付けているのか、今一度しっかり足元を見つめ、この3年間をきちんと振り返りたいと思います。そして在宅へ赴く転機を与えてくれた亡き祖母にいつも胸を張っていられるよう、一步一步明日へ繋げていきたいと思っています。今後とも、ご指導よろしくお願い致します。





看護師 金山 小百合



私が在宅医療に興味を持ったのは、訪問看護を通してでした。在宅という場は、病院とは違い、いろいろな人との間で生まれる温かいつながりがあると思います。一つの出会い、点が、次々とつながり線となり、それが交差しながら面となり、大きな輪となります。一人一人が役割を果たそうと、泣いたり、笑ったりしながら必死で生きようとしています。その過程は、決して穏やかではありません。しかし、一生懸命生きようとする姿は、とても輝いていて、感動が生まれます。そして、何よりも私自身を大きく成長させてくれています。出会う人々に感謝の気持ちでいっぱいです。これこそ在宅医療の醍醐味であると思います。

4月に入職し、3周年を迎えるやまおか在宅クリニックで、ユーモアあふれる院長はじめ、新しい仲間と在宅医療の現場で、これからも日々、奔走できることをうれしく思います。

今後ともご指導よろしくお願ひ致します。



事務 儀崎 匡子



私が事務職でやまおか在宅クリニックに勤務し、約2年となりました。以前、訪問看護ステーションの事務をしていたことから、在宅にとっても興味を持っていました。

そんな時、やまおか在宅クリニックに出会いました。私にとって全く未知の世界でした。仕事を始めて解らない事が多く、常に点数表と在宅の早見表と睨めっこ。2年たっても睨めっこは終わっていません。でも、楽しいのです毎日が！

山岡先生の無鉄砲さは時に不安になりますが、患者さんやスタッフの為と常に想って下さる素晴らしさ。スタッフをとっても大事に想って下さる事務長。スタッフみんなの悩みや相談を聞いて励まし、アドバイスを下さる安土師長。私の疑問に的確に答えて下さる木野村看護師。私と年齢も近いので何かと話を聞いてくれる心強い味方高山看護師。いつも笑顔が素敵でみんなを癒してくれる金山看護師。笑顔で患者さんを迎えてくれる産谷さん。分からない事ばかりの中で一所懸命頑張ってくれるニューフェイスの井上さん。毎日ピカピカに車を磨いて安全運転の染矢さん。

こんな素敵なスタッフに囲まれて仕事ができている今にとっても感謝しています。これからも皆さんの力を借りながら、クリニックのため自分の為に成長し続けていきたいと思っています。





事務 産谷 康子



やまおか在宅クリニックで働き始めて2年になります。主に、電話対応やカルテ入力、保険の請求業務をしています。在宅医療に関わるのは初めてで、全く知識のないまま右往左往しながらなんとかやって来ました。

患者さんやご家族を支える為に色々な職種があり、そこに携わる方達の連携で在宅医療が成り立っている事がわかりました。在宅の相談に来られたご家族が、初めはとても不安そうな表情だったのが、院長や看護師と話し、帰られる時には安心した様な表情に変わる事があります。自分達だけで抱え込まなくても、支えてくれる人達がいるから大丈夫という安心感からなのかなと思います。

私達事務は直接患者さんに関わる事はありません。家族の方が窓口に来られて対応する中で、介護でとても大変なのにいつも明るく元気な姿にこちらがやる気を頂きます。又、亡くなられた患者さんのお話をされながら涙ぐまれる姿には、思わずもらい泣きをしたりと、様々な出会いがあり貴重な経験をさせて頂いています。

これからもクリニックの皆さんの明るい笑顔に励まされながら仕事を頑張りたいです。



事務 井上 寧子



院長と師長に会って3年。いつかお2人と一緒に仕事が出来たらと思っていました。私にとって今は「憧れのお2人」と一緒に職場で仕事をさせて頂いているわけです。

「何か出来ることがあれば」と思って始めた仕事ではありますが、いざ始めてみると毎日が戸惑いの連続です。

特に一般的に知っておかないといけないはずの病気をした時の事、介護の事など知らないことが多い事に驚きです。慣れていくにはまだまだ本当に時間がかかると思います。解らない事は先輩方に教えていただきながら、毎日少しずつでも出来ること、解ることが増えていくようにしたいと思う毎日です。





専属ドライバー

染矢 恵理子



やまおか在宅クリニックがあるのは以前から知っていましたが、患者さんが訪ねて来る風でもなく“在宅”って何？と疑問でした。

そんな時に安土師長と出会い、訪問診療するクリニックなんだという事が解りました。

運転手の仕事に就いて1年程経ちますが、熱心で明るく元気なスタッフに囲まれて楽しく過ごしています。

私も自分の3周年を目指して安全運転を心がけ、いつも笑顔でいられるように努めたいと思います。



事務 山岡 祐子



約3年半前のことです。主人が急に病院を辞めて、在宅クリニックをしたいと言い出しました。

癌であっても在宅で過ごせるように、在宅ホスピスをしたいと言い出したのです。

いつもの事です。主人の性格から、言い出した時はすでに決心しています。反対しても、無駄なことは良く分かっていましたので、とにかく様子を見守りました。

わずか半年でスタッフ4名（院長、師長、事務と私）での開院です。最初は患者さんが来て頂けるのか不安だけでした。安土看護師長さんが自転車で訪問看護ステーションなどへ回って頂き、開院当初から、患者さんの紹介も多く、また、時にはよろず相談所のようなものでした。開院半年後には紹介や問い合わせの電話連絡が多くなりすぎて、安土さんが往診へ同行できなくなり、主人（院長）が一人で運転して往診していました。すると、交通違反や交通事故を起こしては心配となり、院長の代わりに、私が運転手として往診に同行するようになりました。

一日中、大分市内を回りましたが、同行して、多くの患者さんや家族の方たちが往診に来てくれるのを待っていてくださる事が分かり、在宅診療というものの本来の姿を見たように思いました。それから半年後に看護師として木野村さん、高山さんが入職して頂き、私も運転手から解放されました。でも、今でも時々急患時には運転手として同行することがあります。

開院3年でスタッフも10人に増え、仕事量もさらに増えています。でも、いつもクリニックから笑顔や笑い声が絶えず、とても素晴らしいスタッフに恵まれたと思っています。主人は24時間365日、今が一番仕事しているようです。でも、好きなことをしているので諦めて見守っています。

また、最近、今のクリニックが狭いので、会議室や相談室のあるクリニックを作りたいと言っています。言い出した時にはすでに決まっています。いつもの事です。何事にも突き進んでいく姿をただただ後から（感心して？呆れて？）付いて行くだけです。

皆様には、どうぞ、これからもよろしくお願いします。



“リレーフォーライフ in 大分” へ参加して

看護師長 安土 美保

リレーフォーライフは 1985 年にアメリカ人外科医が、がん患者を励まし、対がん運動組織に寄付する目的で、「がんは 24 時間眠らない」「がん患者は 24 時間、がんと闘っている」というメッセージを込めてフィールドを走ったことから始まりました。現在は、参加者がリレー方式で 24 時間歩き、全米約 5,500 カ所、世界 20 カ国で開催されています。日本では 2006 年の茨城県での開催をきっかけに全国に広まりました。2011 年度には開催都市数は 27 カ所、約 36,000 人が参加しました。

大分県では 2008 年から開催され、がんを闘う人たちの勇気を称え、がん患者さんや家族、友人、支援者と共に交代で夜通しグラウンドを歩き続け、募金活動を行うチャリティイベントとして、年々参加者が増えています。2011 年度には大分では、65 チームが参加、来場者数は 5,500 人を超え、日本で最大の大会となっています。

やまおか在宅クリニックも開院から毎年、「チーム在宅」として参加しています。自宅で暮らされている患者さんや家族、ともに仕事をしている他事業所（訪問看護ステーションや介護施設など）のスタッフとその家族の協力を得て、24 時間、たすきをつないでいます。

大会会長を務める院長の山岡がチーム全体を明るく引っ張り、元気と感動に溢れた「チーム在宅」です。年に 1 回、大分では毎年 9 月から 10 月にかけての土曜日、日曜日で開催されています。たくさんの笑顔に出会える、リレーフォーライフに皆さんもぜひご参加下さい。





患者さんも参加し、グランド1周しました。

